



一昭和医科大学歯科病院の理念一

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

歯科治療とアレルギー

医科歯科連携診療歯科 診療科長・准教授 マイヤース(田代) 三恵

今年の春の訪れは三寒四温というより気温の乱高下で始まりました。そのためか、桜の見頃の時期が例年より長く感じられます。ようやく気温の寒暖差が少なくなり、過ごしやすい季節の訪れです。

春は優しい日差し、眩しい花々と気分上々のはずですが、一方、花粉症を持つ人にとっては辛い日々の始まりです。花粉症のようなアレルギー性疾患は多数あり、お口の中にもアレルギーの症状が出る場合があります。一番代表的なものとして金属アレルギーがあります。

お口の粘膜に扁平苔癬（へんぺいたいせん）と呼ばれるレース状の白斑模様が出現し、触れると痛みを感じたり、食べ物がかみたりします。金属アレルギー以外にも、歯科治療では実に多くの種類の薬剤（麻酔薬、歯の根の治療薬、歯周病治療の抗菌薬など）や歯科材料（プラスチックの詰め物、被せ物をつけるセメントなど）を使用するため、これらが原因となって、さまざまな病態を引き起こすことがあります。

なかなか治らないお口の粘膜の荒れ、全

身の皮膚の発疹、または歯科の麻酔を受けるたびに意識が薄れる、歯科治療のあと決まって具合が悪くなるなどの症状が出る場合は、何かしらの歯科薬剤・材料のアレルギーの可能性があります。

さらに近年では「化学物質過敏症」という微量の化学物質に対して過敏に反応して頭痛や倦怠感を引き起こす疾患を抱える患者さんもあり、化学物質を多数使用する歯科治療に対して不安を抱えている方もいらっしゃいます。

当科では、これらの病態と歯科薬剤・材料との関連性を医科と歯科が連携しながらさまざまな検査を行って調べ、症状が改善するように使用できる歯科薬剤・材料を選択しながら歯科治療を行っています。

症状に心当たりがある方、各種アレルギーがあり歯科治療が不安という方は是非ご相談ください。



- P1 巻頭言 歯科治療とアレルギー
- P2 診療科紹介：医科歯科連携診療歯科
- P3 就任のご挨拶
- P4 新入職員のご挨拶、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

患者さん向け、医療機関向け、お知らせなど

診療科紹介：医科歯科連携診療歯科

医科歯科連携診療歯科 講師 松井 庄平

当科は、紹介患者さんの多くが歯科治療時に医学的な配慮が必要なことから、歯科のみではなく医科との連携を強化するために、2022年4月から科名を「地域連携歯科」から「医科歯科連携診療歯科」へ変更しました。

開設以来、全身の病気等により歯科治療の際に特別な配慮が必要な患者さんを多数診察しています。特に重篤な全身の病気を持つ患者さんに対しては、歯の病気の診断をするだけではなく歯科治療に影響する全身状態のリスクの診断を行い、医科主治医や歯科麻酔科と連携を図りながら最適・最良な管理下で、むし歯治療から抜歯・小手術など包括的に歯科治療を行っています。

患者さんの状態により、通常での歯科治療だけではなく静脈内鎮静法（点滴をしてリラックスした状態で歯科治療を受けていただく）、全身麻酔も併用して治療を行っています。また、当科は全身の病気を持った患者さんの治療だけではなく、紹介状をお持ちでない患者さんや特定の診療科が指定されていない紹介状をお持ちの初診患者さんの窓口の役割を担っています。

診療の流れ

最初に診療の依頼内容を確認し、問診、口腔内の診査、X線所見から診断、治療計画を

立案します。患者さんが最適な治療を受けられるように必要に応じて適切な診療科を決定します。

全身的疾患のある患者さんに対しては、医科主治医に診療情報を提供していただき、最適な管理体制（モニターのみ、静脈内鎮静法、全身麻酔など）を決定し治療を行います。

治療対象

- 1 心臓病、糖尿病、抗血栓薬服用中など重篤な全身疾患をお持ちの方
- 2 歯科恐怖症・嘔気反射
- 3 麻酔薬・歯科薬剤・歯科材料に対する過敏症、アレルギー
- 4 全身疾患が関連する難治性粘膜疾患 など

当院での診療が終了した後も、紹介いただいた地域の医療機関の先生方とは「お互いの顔の見える連携」を継続して、患者さんへ切れ目のない医療を提供しています。

3,000病床を超える昭和医科大学附属病院と昭和医科大学歯科病院のチーム医療で、安全・安心・快適な医療が提供出来るように医局員スタッフが一丸となり頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



写真1 歯科麻酔科と連携した治療の様子



写真2 医科歯科連携診療歯科スタッフ

就任のご挨拶

保存修復科 診療科長・教授 小林 幹宏



このたび、令和7年4月1日より保存修復科の診療科長を拝命いたしました。

当科では、歯や口腔の健康を長く維持することを目指し、むし歯や歯の欠けなどの損傷といったお悩みに対応し、治療・修復を行っています。むし歯は一生を通じた疾患であるため、患者さんが安心してご自身の歯で食事を楽しめるよう、できるだけ自然な歯を残しながら、削る量を少なく抑えた治療を心がけています。治療の繰り返しによる負のサイクルを防ぐため、予防歯科にも力を入れ、当院お口の健康センター所属の専門歯科衛生士と連携し、むし歯の予防管理を行っています。また、自然な見た目を重視した修復や、最新技術を活用した詰め物（ダイレクトボンディング）などの治療も行っています。

近年では、歯の色に関するお悩みをお持ちの方が多くいらっしゃいます。ホワイトニングという言葉も一般的となり、歯磨剤やセルフホワイトニングといった方法を目にする機会が増えていますが、歯科医師や歯科衛生士が行うホワイトニングは「医療ホワイトニング」と呼ばれるようになっています。保存修復科ホワイトニング外来では、専門の歯科医師と歯科衛生士が連携し、これまで多くの患者さんに医療ホワイトニングを提供してまいりました。

健康な歯と口腔の健康は、生活の質（QOL）の向上につながる大切な要素です。保存修復科では、口腔内の健康を維持し、皆様の生活の質を向上させるために全力でサポートしてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

顎顔面口腔外科 診療科長・教授 大場 誠悟



この度、代田達夫先生の後任として、令和7年4月1日付けで、昭和医科大学歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門の教授職を拝命いたしました、大場 誠悟と申します。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は、長崎大学歯学部卒業後に同大学口腔外科学第二講座（井口次夫教授）/顎口腔再生外科学講座（朝比奈泉教授）に入局し、口腔外科医としてのキャリアを開始し、2024年2月に昭和医科大学歯学部口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門（代田達夫教授）に入局させていただくまで約25年間の大半を長崎大学で研鑽を積んでまいりました。その間、Michigan大学への2年間の研究留学、福井大学医学部附属病院歯科口腔外科（佐野

和生教授）への2年間の出向、HannoverやFreiburgへの臨床研修など知見を広め歯科医師・口腔外科医としての幅と深さを広げて参りました。思い返せば師匠に恵まれた学びの日々であり、さまざまな薫陶を受けてまいりました。

現在、さまざまな施設との共同研究を進めており、昭和医科大学発進の新しい治療方法や治療戦略の確立を目指しております。医局の中心が30代と若く馬力もありますので、代田先生が築かれてこられた基盤をもとに、臨床・研究ともに更に飛躍できるものと確信しております。

まだまだ未熟で浅学の身でありますので、これからも学びを継続し、少しでも地域社会への貢献や大学の発展に尽力して参りたいと思います。今後とも変わらぬご指導の程、何卒宜しく願い申しあげます。

新入職員ご挨拶

技術や知識はもちろんですが、患者さんに寄り添い、信頼関係を築ける歯科医師になりたいと考えています。仲間と切磋琢磨して充実した一年にしたいと思います。

臨床研修歯科医師 金本 杏南

昭和医科大学歯科病院での研修を通して、患者さんの目線に立って物事を考えられる歯科医師になれるよう、仲間とともに実り多い時間を過ごしたいと考えています。

臨床研修歯科医師 黄川田 真采



臨床研修歯科医師 オリエンテーションの様子

日々学びを深め知識と技術を習得し、患者さん一人ひとりに寄り添った歯科医療を提供できるよう努めてまいります。

歯科衛生室 歯科衛生士 堀 叶

患者さんに寄り添い、信頼される歯科衛生士になれるよう、専門的な知識や技術の習得、コミュニケーション能力の向上に努めます。

歯科衛生室 歯科衛生士 江原 晶

これからの社会の多様なニーズに応え、患者さんやご家族に寄り添うことのできる歯科衛生士を目指して、知識技能の習得に励みます。

歯科衛生室 歯科衛生士 武井 優奈

新しい環境に早く慣れ、沢山の先輩方がいらっしゃるこの素晴らしい環境を少しでも無駄にしないよう、日々精進してまいります。

歯科衛生室 歯科衛生士 佐藤 茜

歯科衛生士としても社会人としても成長できるよう、常に向上心を持って専門的な知識と技術の修得に励みたいと思います。

歯科衛生室 歯科衛生士 大川 麻衣



編集後記

今年も無事に新年度を迎えることができました。年度末は陽気に恵まれ、お花見を楽しまれた方も多いのではないのでしょうか。一方で環境の変化も重なり、体調を崩しやすい時期でもあります。日々の業務はもちろんのこと、より一層体調管理に努めていく所存です。来院される皆様も日々の歯磨きと感染症対策を忘れずに、院内ではマスク着用をお願いいたします。 (K.Y)